



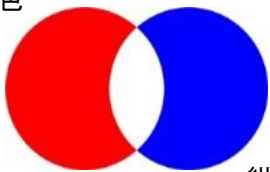
日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No. 85
2018-12-10

한일 시민 네트워크 · 나고야

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

Home Page: <http://home.m00.itscom.net/nikkan/index.html>

朱色  紺青	目次	1 事務局通信	統括幹事：後藤和晃
		2 ニュース	事務局
		3 お知らせ	事務局
		4 忠南大学生交流団の感想文	学生の皆さん
		5 学生交流団を迎えて	ホストの皆さん
		6 中国東北部“渤海紀行”に参加して	会員の皆さん



事務局通信
사무국 통신

事務局統括幹事 後藤和晃

1. 徴用工判決で深まる日韓の溝 ～日韓関係は『冬の時代』に戻るのか？～

10月30日、韓国大法院(最高裁)は、元徴用工4人が新日鉄住金に、損害賠償を求めている訴訟で「新日鉄住金は、原告1人あたり1億ウォン(約1,000万円)を支払うように！」と判決しました。韓国で最高裁判所が日本企業に賠償を払うように命じた判決は、これが初めてですが、今回と同様の裁判が他に14件も続いており、今後も日本企業が敗訴を続ける公算が強まったとして関係企業や日本政府関係者の間に衝撃が走っています。



韓国各紙の新聞報道

日本政府は、元徴用工の個人請求権は、1965年の日韓基本条約と同時に結んだ日韓請求権協定で全て解決済みとの立場です。韓国の歴代政権も、これまで同様の見解を示していたため、安倍首相は「国際法に照らして、あり得ない判決だ！」と強い不快感を表明しました。

一方、河野外相も駐日韓国大使のイ・スフン氏に対し「日韓の友好協力関係の法的基盤を根底から覆すもので、断じて受け入れられない」と抗議し、併せて

「日本企業や日本国民が不当な不利益を受けることがないよう韓国政府が必要な措置を執るよう求めました。」

ただ、韓国の裁判所では、元徴用工と立場が似た元挺身隊員だった女性たちが日本企業に賠償を求める裁判もあいついでおり、関係した日本企業は当分、韓国の最高裁の動きから目を離すことができないでしょう。(挺身隊員とは、戦前の韓国の女学生で、日本企業に動員され働いた人たちの事です。)

文在寅大統領の登場いらい、韓半島の将来をめぐって、文大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長との間の南北対話、そして、アメリカのトランプ大統領と金委員長との米朝会談が開催されました。この1年を、日本の立場で見ていると韓国政府が南北対話に注力するあまり隣国、日本に配慮する余裕を失っているように見えてなりません。

むしろ元来同じ民族である南北が、民族の絆を確かめ合い、様々な形の協力を模索していることは、十分、理解し、共感も覚えます。ただ、民主主義という価値観を共有し文化的、経済的にも強いつながりを持ってきた隣国にも一定の関心を払い、関係を『冬の時代』に戻さないように願いたいものです。

2. ^{てじょん}韓国大田から学生交流団を迎えて

今年の夏、8月2日から6日まで韓国の中核都市のひとつ、大田から学生交流団を迎えました。一行は、国立忠南大学の教授1人と学生7人の計8人で、1泊2日の奈良旅行の後、3泊4日のホームステイを経て、帰国して行きました。

(今回の交流に関わる韓日の関係者の感想文は、会報の5ページ以降をご覧ください)



平城宮跡の交流団

なら総数15～16人を受け入れていたのですが、ホームステイのホストに手を挙げる会員が激減した結果、やむなく交流団の規模を小さくしてもらっているのです。

会員の皆さんの心情は、よく分ります。2012年に当時の李明博大統領が竹島(韓国では独島)に上陸し「独島は韓国の領土！」と宣言してしまい、韓国では何かにつけ「慰安婦」「徴用工」問題などで、日本に謝罪や賠償を求めるムードが高まっており、そうした風潮に対して「納得できない！」と考えている方も多いでしょう。

とは言え、私たちは会が存続する限り、どんな小さな規模の交流団でも受け入れを続けたいと思います。かつて、故金大中大統領は日本文化全面否定の時代に勇断を以て日本文化の開放を進めました。民間では、大邱市の住人、故徐彰教さんは、戦前の大邱市寿城区で水不足に泣いた農民のために巨大な農業用貯水池、寿城池を造成した岐阜市出身の水崎林太郎翁(昭和14年死去)の墓を、父兄そして自分と75年間も守り続けてきました。「日本人の墓を守るなんて何を考えているんだ！」と永い間、後ろから石が飛んでくるような雰囲気でしたよ」と徐さんは、生前語っていましたが…



大野玄妙師と面会(法隆寺)



大仏殿前で平岡慎紹師と

2000年以上にわたって絆を結んできた国、それが隣国、韓国です。

今回の交流団の学生たちは、いずれもその古い絆に気づいてくれたようです。

女子大生アンヒョナさんの文には、交流の意義が特に良く表現されているように思います。来日前には、反日的な心情に支配されていた彼女が、5日間の日本滞在中に市民ネットの会員たちとの交流を通して日本人や日本文化のイメージを大きく転換させた事を率直に記しています。そして、こうした感想を抱いて帰国した交流団の学生は枚挙にいとまがありません。

韓国人全体から見れば、これまで招いてきた交流団の人数は砂粒ひとつ程度の人数ですが、それでも日本を理解してくれたという意味で極めて貴重な存在です。

大げさに言えば日本人と韓国人は、永い永い歴史を共有し、絆を紡いできた隣人同志です。これから先も絆を紡ぐ努力を微力ながら続けたいと思います。

◎交流を支えて頂いた皆さんに深謝!!

以下の皆さんの御寄付で大田学生交流回の奈良 1 泊旅行を無事終えることができました。

金 幸 淑	50,000 円	大山 博志	30,000 円	安田 守	5,000 円
岡崎 洋子	5,000 円	太田 道子	3,000 円	早間 敏夫	3,000 円
田口 良浩	3,000 円	伊藤 良郎	5,000 円	長澤 進	10,000 円
鶴飼 満	10,000 円	松尾 博雄	5,000 円	後藤 和晃	10,000 円
三尾 和廣	3,000 円	山田 あき子	3,000 円	野村 憲司	3,000 円
井ノ口 俊子	5,000 円	吉村 操	50,000 円	大島 康彦	10,000 円
高橋 孝子	20,000 円	佐藤 昭子	5,000 円	二日市 壮	1,000 円
大久保 孝造	10,000 円	山本 玲子	20,000 円	井上 靖代	3,000 円

以上 計 27 万 2 千 円

* 吉村操さんは、故長田竹子さん(戦前大田高等女学校で学んだ引揚者)の娘さんで、「母が永らく会のお世話になりましたから」と寄付頂きました。心から感謝すると共に長田竹子さんのご冥福を祈ります。

3. 中国東北部に「渤海紀行」を実施

9月17日から24日まで、私たちのグループは、日本考古学の元会長、西谷正先生に連れられ、元の満州、中国東北部を古代渤海国の面影を求めて旅をしました。余りにも広大な地域なので飛行機・列車、そして、バスを乗り継いでの8日間でした。

旅行の間、目に飛び込んでくるのは、次々と終わりなく展開するトウモロコシの畑でした。そして、風景が一変したのが、中国と北朝鮮、それにロシアが国境を接する延辺朝鮮族自治州で、ここでは朝鮮族の人たちが中心になって稲作を行っていました。

見わたす限り黄金色の稲穂が波打つ風景に見とれました。

また、訪れた都市、ハルピンや延吉、大連いずれも大型ビルが立ち並び、夜にはビルをネオンが彩って美しい雰囲気を醸し出していました。



延辺に目立つ水田風景



懐かしのハルピン



渤海 上京龍泉府史跡

今回の渤海紀行では、旧満州の東部各地に、当時の栄華を忍ばせ点在している「渤海五京」を訪れました。

上京龍泉府をはじめ、いくつかの史跡では、確かに古代渤海の残像を見ながら、始祖大祚榮(テジョヨン)の叱咤の下、草原を駆けて行く騎馬軍団の足音を聞くような思いがしました。ただ、今回の紀行地が北朝鮮やロシアとの国境に極めて近い史跡だったせいか、3ヶ所では史跡の周辺までしか入れず、残念な気持ちもありました。

しかし、一方では朝鮮族の人々が「遠くの親戚が訪ねてきた！」といわんばかりに、私たちのグループに親切にしてくれたのには嬉しい限りでした。

聞けば今、日本には中国の朝鮮族がなんと8万人も住み、多彩な職場で働いているというのです。

日本で朝鮮族の人々に会ったら、こちらも配慮しなければと思ったものでした。

渤海紀行に参加した皆さんの感想文は17ページから掲載してあります。ご一読下さい！

10月26日、韓国・天安市にある在外韓国人のための国立墓地で、日韓市民ネットを永年、支援して頂いた故鄭煥麒顧問(元琥珀会長・愛知民団顧問)の三回忌の祭祀があり、事務局の後藤が参席してきました。鄭煥麒さんが逝去されたのは、2年前の10月で、お墓は遺言に従って日本や米国、欧州など韓国以外の国に住んでいる韓国人のための国立墓地 天安の「望郷の丘」に置かれています。



拝礼する人たち

10月26日の朝10時、丘の斜面に広がる墓地のほぼ中央にある鄭さんの墓前に祭祀の関係者が集まりました。名古屋からは息子の鄭統圭さんご夫妻と娘さん、ソウルからは鄭煥麒さんの甥の鄭幸圭さんの関係者たち、そして慶尚南道の晋州にある晋州教育大学の皆さん方など十数人でした。各地から集まった方々は、墓前に供物や花を飾ったあと、次々と、供養の水を捧げてから



天安・望郷の丘

丁重に拝礼を行いました。

後藤も許されて拝礼を行いました。いずれ鄭煥麒さんを囲んでの食事会を開いていた友人、知人たちと、望郷の丘を再訪しようと考えています。

※晋州は鄭煥麒さんの生まれ故郷で、その郷里にある晋州教育大学のために、鄭煥麒さんは、生涯にわたって多額の寄付を行ってこられました。



故鄭煥麒さんの墓



알림 お知らせ

第22回総会と交流会

政府間の対話に影が差している日韓の状況ですが、私たちの団体は、例年のように淡々と総会と交流会を同日に行い、民間交流の灯を、いかにささやかであっても、守り続けて行きたいと思えます。日程は以下の通りです。

総会

日時 2月28日(木) 15:00～
場所 名古屋国際センター

交流会

時間 2月28日 17:00～
場所 名駅東 琥珀ビル2F ゼンゼロ
会費 4,000円

交流会を行なうゼンゼロは、故鄭煥麒さんのご好意で何回も利用させて頂いたイタリア料理の名店です。ご本人が逝去されたため過去2年は利用を遠慮してきましたが、2月の交流会は、ご子息の鄭博さんのご好意で開放して頂けることになりました。参加費もお一人4,000円とさせていただきますので多くの皆さんに極力、参加いただくようお願いします。参加される皆さんは同封のハガキを返送すると共に、郵便局から会費4,000円を振り込んでくださるようお願いいたします。

※ハガキは来年の2月8日までにつくように投函して下さい。

忠南大学生交流団の感想文

交流団のうち、金準鎬、曾大善の2人が男子学生で、外の5人は女子学生です。それぞれ訪日の意義を誠実に記していますので、一読をお願いします。

① 短い出会いと長い余韻 朴眞娥(パクチナ) 忠南大学校 考古学科2年

今年2月初めて日本の福岡、熊本を古蹟調査で訪れたので今回は二度目の日本訪問になった。募集広告を見て日本で日本人と一緒に4~5日間過ごすのはなかなか得られない経験だと思い参加を決めた。

観光、調査など目的はいろいろだが日本に知人がいない以上、またたとえ知人がいたとしても日本人の家に泊まり短い時間でも彼らと一緒に話をしたり名所などを周ったりする機会はそうはないと思う。

全ての日程を学校が主管する調査とは異なり2~3名の班に分かれて各家庭に振り分けられる形だから準備を始め全てを自分たちでしなければならなかった。

そのため参加する学生の間で意見の相違があるなど紆余曲折もあった。そのうえ日程の初日に飛行機が延着しあわただしい日程になった。

初対面の挨拶もきちんとできないまますぐ見学の場所へ移動しなければならなかった。翌日ホームステイ先の家に泊まるまで日本人参加者の名前も覚えられなかった。

しかしお会いした方たちは皆韓国と縁が深い方たちだからなのか、私たちを喜んで迎えて下さり見学場所の選択も韓半島と日本の交流の跡が見える所をわざわざ選らんで下さっていた。

二日間4~5か所の寺院と宮殿の跡地などを巡った。その中で一番印象的だった所は東大寺だった。

鹿公園を過ぎて東大寺を訪れた時、在日韓国人の通訳ガイドの方が案内して下さいました。2日間あちこちを回った中で東大寺が一番記憶に残った理由は寺にまつわる話のためだった。

東大寺の創建には百済系の渡来人の後裔良辯僧正が大きく貢献したこと。そして東大寺を守る巨大な仏像は百済系高僧行基が全国を回って建設資金を集めたことで誕生したという事実を東大寺に住んでいらっしゃる御坊様と交流会のメンバーのお話から知ることが出来た。



中央がパクチナさん

こうしたお話を聞いて三国時代から今まで行われた韓半島と日本の交流があるから私にもこのような特別の経験をする機会が与えられたのだというその時の特別な気持ちは旅を終えて帰国した今でもその余韻が消えない。

私が持っていた日本にたいする固定観念や偏見などは今回の旅行と二日目の夕方から泊まっていた早間さんの家庭を通して無くなりました。

日本を訪問する前はマスコミを通してみる日本の動きや歴史問題等により日本に対してなぜかが距離を置いていた。そんな態度は今年1月頃福岡地域の調査をした後も変わらなかった。

実は今回の旅でも参加学生と一緒に動く初日と二日目の見学日程の間はそんな思いを全て捨てることは出来なかった。確かに隣国の地で韓半島文化と韓半島人の痕跡を日本人と韓国人と一緒に確認する経験は嬉しくもあり意味のあることだった。

しかしそれらのことが私に日本に対する異質感を解消してくれたとは言いきれない。自分の低い識見と狭い視角のせいで、こうした活動は日本と韓国の国家的な交流の歴史をさかのぼる有意義な行事だと思いながらも私の日本人との直接的な交流と見ることは難しいと思うからです。

しかし二日目の夕方から私と同期生、そして考古学科の先輩三人が交流会の会員である早間さんの御宅で過ごした時間は日本に感じていた私の心理的距離を縮めるのに十分だった。三日間行動を共にした同期と先輩が日本語でのやり取りが出来た

ので無理なく三日を送ることが出来た。ホームステイをするだけといっても期待よりは心配が先立った。



名古屋城で

いくら同行の二人の日本語がうまいといっても私自身は日本語では何も言えず書けずの状態でもしもの時の備えが出来ていなかったからだ。

その上ホストの早間さんと奥さんは韓国語には疎く意思の疎通に限界があり困ることが度々起こるのではと心配だった。

しかし言葉の壁は高かったけれど早間さんから感じた好意と真心は日本にいる間ずっと、そして今でも忘れられない。

目を見ながら私が何を必要としているのか、どんな話を伝えようとしているのか把握しようと努力され、私もまた早間さん夫妻の表情と動作を読みながら時には仲間の力を借り最大限理解し合う努力をした。

② 日本実地調査旅行 金準鎬(キムジュノ) 忠南大学校 考古学学科4年

こんにちは。みなさん お元気ですか？

訪日初日後藤先生がお話しされたように今回の研修旅行を通して感じたことを簡単ですが書いてみようと思います。先ず4泊5日の踏査旅行の間私たちを受け入れて下さった全ての方々に心からお礼を申し上げます。今回の踏査旅行のように日本の方たちと一緒に旅行するのは初めてなのであれこれ心配をしたのですが、全てが良く準備されていて本当に楽しい時間を過ごしました。

特に法隆寺、唐招提寺、平城宮跡、東大寺など訪問した先々でその場所についての説明を詳しくして下さいのおかげで有益な踏査になりました。何より法隆寺の住持から直接お話しを聞いたこと。さらに東大寺でも大仏の膝元まで上がって説明を聞きお祈りをする普通ではありえない経験を通して以

早間さんは自ら運転し名古屋近郊の名所を案内され私たち一行に食事をふるまわって下さった。名古屋城、犬山城、徳川美術館など教育的で興味深い場所だった。早間さんが案内して下さいた場所ともてなして下さいた料理一つ一つから名古屋を初めて訪れる私たちのためにかなり苦心された様子が窺われた。

そうした心使いは私たちが早間さんの御宅を発つ瞬間まで変わらずいつも相手の都合を考えるお二人の心は会って三日にしかない他人とは思えない温かいものだった。

毎晩早間さん夫婦と私たち一行は一日の締めくぐりに簡単なおしゃべりをした。

今回の旅行で一番記憶に残っているのはその時のこと。私が抱いていた日本に対する距離感を縮め日本に対する固定観念や偏見等を失くす契機になったのがまさにその時間でした。

早間さんと一緒に三日間はあっという間でしたがお二人の韓国への格別な思いを感じて、偏った「日本」を見ていた私の視角と偏見はすっかり変わってしまった。

交流会と一緒にした4泊5日間の出会いが月日の経過とともに自然に忘れ去られることなくお互いの心の中であの時間を思い出すことが出来ることを、お互いがこの縁によりまた会える日の来ることを心から願っています。

前日本に旅行に来た時とは違う面白さをしっかり味わいました。



展示を見るキムジュノ君

もちろん大部分が日本語だったのでよく分からない所もありました。そんな時大石さんが韓国語通訳を本当に上手にして下さったので理解が深まりまた私の日本語の勉強にも役立ちました。



実は1年前から日本に関心を持つようになり少しずつ日本語を勉強していました。今回の踏査旅行で大石さんの通訳をする様子を見て私ももっと頑張ろうと誓いました。またホームステイを通して日本文化に対し一層関心が高まりました。ホストの藤本さんがいろいろ配慮して下さい日本の弓を射る特別な経験もでき、日本の華麗な花火を見ることもできました。このほかに藤本さんと友人たちの集まりに参加し日本についてさらに理解する良い時間を持つことが出来ました。今回の踏査旅行を通して日本語からさらに進んで日本の様々なことについても関心が広がりました。

③ 紀行文 曹大善(チョテソン) 忠南大学校 史学科4年

韓国と日本は隣国として互いに深い関係を持っている。古代、中国から日本まで様々な文化が伝わる過程で韓国の渡来人が関わっており、朝鮮時代には豊臣政権の壬辰倭亂が勃発したりもした。

韓国史で外すことのできない日帝による植民地支配期。これも韓国と日本が密接な関係であったという一つの歴史だと言える。そのため韓国では今もそれについての研究が活発に進められており、私は大学で歴史を専攻する学生として強い関心を持っている。歴史問題だけでなく韓国人は日本に対して様々な関心を持っている。その関心は良い方向にも悪い方向にもなりうる。どちらになろうとも日本という国家と日本の文化が韓国人の生活に大きな影響を与えている事実は否定できない。

私が日本文化に関心を持ったのはそれほど昔のことではない。兵役を終えて学資を得るために契

不思議だったのは日本の方たちとこうした場で話し合うのは初めてだったのですが、話す程に言葉は違うけれど距離感のようなものを全く感じなくなったことです。むしろ日本文化と韓国文化が互い異なる面が多いからと自分で壁を作っていたのではなかったという気にもなりました。しかし直接会ってあれこれ話しをしながら文化の差が決して壁になるのではないと体感しました。

こうした日本での経験と併せ踏査期間の間、韓国と日本、日本と韓国の交流について学んだことで我が国と向き合っている日本を国家としてではなく隣人として感じられました。「袖触れ合うも多生の縁」という日本のことわざのように今回お会いした方たちとの出会いを大切にしたいと思います。

いろいろと本当にありがとうございました。今一度お礼申し上げます。

追伸

踏査旅行の初日藤野さんにきちんと伝えられなかったのですが、読んで下さったスピーチ原稿、本当に感動でした。

後藤さんが会食の場で尋ねられた私の名前「準鎬」の意味は「正確で明るい」という意味です。遅くなりましたがお答えします。

約職員として就職した。半年間の初めての社会生活を終えた後、苦勞した自分への小さなプレゼントとして授業料を払った残りのお金で友人と海外旅行を計画した。



左端がチョ デソン君

その目的地は日本の大阪だった。特に日本に行きたくて決めたのではなかった。今も変わらない

がその頃も大阪は韓国人の間では人気のある海外旅行観光地の一つだった。距離的に手ごろで食べ物の味も似ており、価格面から見ても大阪は行く価値のある所だった。

それまで私が日本に抱いていたイメージは「アニメーションとオタク文化」、「日本の植民地支配に関連する歴史問題」、「日本料理」この三つに整理できる程度の単純なものだった。

しかし初めての大阪旅行で私は日本という国とその文化に大きな衝撃を受けた。私の祖国韓国と比べるつもりはないが、その頃感じていた日本という国は韓国の生活の短所がほぼ解決された所のように思われた。どこに行っても清潔で静かだった。人びとは皆秩序意識を徹底的に守って暮らしていた。秩序正しく動く大都市の様子は疵らしいものを見つけることが難しかった。



後方が東大寺大仏殿



朴スバル先生の話聞く

四日間の旅行は私にもう一度日本について考えさせ以後強い関心を寄せる契機になった。韓国に帰ってから日本の文化について調べてみて、様々な場所で多くの情報に接するようになり、私が見たり経験したりしたことが皆理想的なものではな

いと知った。それで私は日本の文化が好きになった。

一度は日本で暮らしてみたいと思うようになった。初めての大阪旅行以後、大阪と京都にそれぞれ一回ずつ旅行しそんな思いを一層強くした。

そんな時、偶然今回の研修旅行とホームステイの機会を得て名古屋まで来ることができた。観光客として経験した日本とは違い岡崎で経験したホームステイは私にとって日本文化についてのより広い視角を持つよい機会になった。

私が泊まった岡崎は韓国人にはほとんど情報のない未知の世界に近かった。インターネットで検索してもこの地域の旅行情報はほとんど得られなかった。遠い韓国の大田から来た韓国人学生を親切に迎え入れて下さり寝る所と食べるもの、そして忘れられない経験までプレゼントして下さった交流会の方々とは四日間一緒に過ごしたことは日本人について持っていた偏見や思い込みをもう一度考え直す契機になった。

今の韓国人は日本人に対し様々な否定的なイメージが詰め込まれている。百年余り前の日本から受けた植民統治の歴史を見るとどう考えても韓国人がそうなるのは当然のことかもしれない。

しかし日本の交流会の先生方が私たちに示して下さい下さった好意はそれとは違うものだと思われた。

歴史を正しく理解し信頼関係を作り上げることは両国間に残った国家的次元の問題であるが、相互が信頼を結び互いに生かし合おうとすれば両国のすべての発展の道が開かれると思う。そして私が日本で受けた親切は決して嘘だとか隠された意図があるとは思わない。

先生方は国籍の違いからくるすべての問題を超越し韓国から来た私たちをもてなして下さい下さった。

先生方が見せて下さった御厚意は私たちにとって何か足りないものはないかと振り返るきっかけを作ってくれたようだ。

支援して下さい下さった皆様に感謝すると共にこうした御厚意が一次的なもので終わることなくお互いがより深く多く知りあえるための架け橋になりこの縁がこれからもずっと続くことを願っている。

④ 日本研修旅行感想文 宋珣周 (ソンユンジュ) 忠南大学校 史学科 1年

私は日本の名古屋に行く機会があるという話を聞いても特に興味を持ちませんでした。名古屋という名前を聞くのも初めてでした。私の日本の地方都市についての知識が狭かったからです。

そんな中でホームステイをするという情報を得て日本人の家で過ごすということがどんなんだろうかという気持ちから参加することにしました。それだけではなく高校生の時に第2外国語で日本語を学び、日本映画やアニメが好きで日本という国に関心もありました。今回の機会を通して名古屋がどんな地域なのか調べ現地の人たちとの対話を通して日本の生活文化を詳しく知ってみたいという目標を持って日本に向かいました。

飛行機から降りた日本は本当に暑かった。今度が3度目の訪問だったのですが以前の訪問時は皆冬だったので日本の暑さをよく知りませんでした。行く前に周囲の人から「暴炎」に注意しろとは聞いていたのですがこれ程とは知らずひどく戸惑いました。私は日頃から暑さ負けしやすく何度も目の前がくらくらしたことがあるので、もし今度もそうならどうしようと心配をしました。

幸いあらかじめ用意した日傘と携帯用の扇風機のおかげで何とかやり通せました。地下鉄に乗って日本の方たちとの待ち合わせ場所に行くと朴淳発教授を知っている方たちが駆け寄って歓待して下さいました。誰かを見てこんなに喜ぶ反応を見たのは初めてでちょっと驚きました。

一緒にマイクロバスに乗り奈良の観光地に向いました。史学科の研修旅行で日本を訪問した時感じたものとは少し違い不思議な気持ちでした。やはり良い所は何度も行くものだという言葉は正しいと思います。特に東大寺は大仏さまが座っていらっしゃる台座まで上がることが出来本当に良かった。去年は時間に追われ細かい所まで見られなかったが今回は和尚様の説明を聞きながら細かい所まで見るのが出来た。一つ残念だったのは私の日本語の力が足りず説明を十分に理解できなかったことでした。

ホストの方の家で泊まり10年ぶりくらいに浴槽を利用したことが記憶に残りました。韓国は浴槽をほとんど使いません。我が家にも浴槽はありませ

ん。ホームステイの初日お風呂にお湯を入れて置きましたよという話を聞いて日本のお風呂文化を思い出しました。

お湯に体を沈めるのは久しぶりで幼い頃に戻ったようにドキドキしました。このお風呂を家族全員が使うと知って少し驚きました。また浴槽のお湯の温度を調節する機械が付いているのを見てそんな機械が韓国にも導入されたらいいなと思ったりもしました。三日間お湯に体を浸けていたからなのか韓国に帰ってもお湯に体を浸けることが懐かしくなりました。



右の赤い服がソンユンジュさん

名古屋は思っていたより本当に大きな都市でした。地方という思い込みから田んぼと畑、歴史的な場所があるだけの所じゃないかと思っていましたが、大きな間違いでした。特に名古屋駅では大きなデパートと広い街並みに目が丸くなるほどでした。大田のどの百貨店よりも規模が大きく見て回るのも大変でした。

流動人口が多いのか人も多くすぐにも迷子になるのではと思うほどでした。名古屋には城と神社、美術館と科学館などの沢山の観光名所があると聞きもう一度訪れてもう少し集中的に見学したいと思いました。

後藤さんの家に泊まり美の娘のようによくしていただき本当にありがたかったです。家の中にあるカラオケの機械には韓国の歌謡曲があり韓国語の本や土器を持っていらっしゃる様子を見て韓国に対する愛情が感じられました。

日韓ネットワークの会員の方たちは皆予想外に韓国語が上手なので驚き、年齢がはるかに上だと知ってまた驚きました。

定期的に日韓交流を続けていくことがどれ程大変なことか分かるのでこうしたことはお年をめした方たちが根気強くされていることは本当に尊敬すべ

⑤ 日本との新たな出会い

安賢兒(アンヒョナ) 忠南大学校 史学科 3年

幼い頃の私のすべての夢と遊びを支配していたドラマがあった。「不滅の李舜臣」だ。私が一番好きな詩人は日本で獄死した尹東柱。私が最も尊敬する韓国人は若山金元鳳先生だ。

子供の頃から遺物や遺跡と向き合う考古学や古代史より現代社会を産み出した近現代史に興味があった。

高等学校の時には歴史同好会を作って「日本軍による慰安婦被害者を記憶する」キャンペーンをしたこともある。こんな私なので日本と私との出会いにはいつも否定的ないわゆる「日韓関係」が混じり込んでいた。

私が学んだ日本の歴史は韓国史または世界史を学ぶ中で知った僅かな知識程度だった。日本語を学ぶこともなかった。

そんな時今年の1学期、史学科の専攻授業で「日本史の理解」を聴講した。担当教授が日本の古代史が専門だったので日本の古代史に重点を置いて勉強することになった。

おかげで私は日本の古墳時代と前方後円墳、渡来人と飛鳥時代の仏教文化、聖徳太子、奈良時代の平城京について初めて詳しく学んだ。

日本の歴史を初めて韓半島からでなく日本列島から眺め、長く日本に留学された教授の経験談を通して日本の文化と特別な伝統、基本的な礼儀作法などを知った。このおかげで私はこれまで自分が日本を偏った視線で見っていたことに気づいた。

「日本史の理解」の授業が終わる頃、私は自ら体験してありのままの日本に会いたくなっていた。運よく考古学科の朴淳發教授の仲立ちで「日韓市民ネットワークなごや」と一緒に五日間の得難い経験をすることができた。

「日韓市民ネットワークなごや」が出迎えてくれた時の歓迎の挨拶が韓国語だったのでとても驚いた。韓国語は歓迎の言葉だけでなく私たちと日程

きことだと思えます。これからもこうした機会があればまた参加したい。そして周囲の人たちにも参加を勧めたいと思えます。

次は日本語の力をもう少し付けて名古屋を訪問したい。名古屋の素敵な記憶と印象はずっと変わらないと思えます。

を共にして下さった方たちほとんどが流暢な韓国語を話された。

韓国語の出来るネットワークの会員と日本に残る韓半島系の渡来人の足跡を辿り奈良の法隆寺、唐招提寺、平城京宮殿跡、東大寺を見学した。

名古屋の犬山城、日本伝統のからくり人形博物館と城町博物館では日本の伝統文化と町の姿を見ることが出来た。この時一緒に村越さんから考



右側がアンヒョナさん

古学研究論文を頂き論文についての話を聞くこともできた。

私とユンジユのために三日間宿所を提供して下さいました。後藤さんとは町のお祭りで住民の人たちと一緒に踊りを踊ったりもした。

後藤さんは木曾川、揖斐川そして長良川が集まる河口に堤防を作った時の武士たちの話をされました。そしてその川を見にドライブをしてくださいました。また後藤さんの家のカラオケで後藤さんの好きな韓国の歌謡曲を聞き、「南行列車」を一緒に歌って楽しんだ。

四日目は名古屋市内を案内して下さいました藤野さんと名古屋市美術館とボストン美術館を回りながら好きな日本の映画と小説、韓国歌謡についての話もしました。そして午後には日韓市民ネットワークの会

員の方々と夕食を楽しみながら韓国の話、韓国と日本の関係についての話などいろいろ話をした。

こうして五日間日韓市民ネットワークの会員の方たちと交流し、大切な思い出を得られました。

私は今回の交流と旅行で日本列島から日本歴史を生きいきと学ぶことが出来た。

ニュースや歴史の本でだけ見ていた日本が、日本人と会い対話し彼らの言葉と文化と礼節を学びながら少し近づいたと思う。

生まれて初めて直接日本人と出会い話しをし、十分ではないが日本語を学び日本語を話した。日本の家庭に泊まり日本の生活文化を経験し、日本の町や神社を見聞きし小さな祭りを守る町の伝統文化も経験した。こうしてありのままの日本に出会い私は日本と日本語に対する距離感を無くし

た。日本人に出会い国と国の日韓関係ではない、人と人との出会いを考えるようになっていた。そして日本の文化と歴史をあるがままに受け入れるようになった。韓国と日本の歴史がいつも反目していたのではないことを日本の古代遺跡を通して知り、日本人も渡来人の歴史を大切な自国の歴史として考えていることを知った。

韓国の古代文化を推測させる日本の古代遺跡等を立派に残している日本にありがたい気持ちになった。もう一度日本を訪れたい。

次回には日本語と日本の礼節と文化を勉強して訪れるつもりだ。

五日間貴重な経験をさせて下さった「日韓市民ネットワークなごや」にありがとう。

⑥「日韓市民ネットワークなごや」を通して私の感じたこと 鄭(チョン)ダウン 忠南大学校 考古学科 3年

参加期間中ずっと日本のことをもっと知らねばならないと見て聞いて感じながら本当の日本の文化を味わいました。同時に日本のことをよく分かっていたことも実感し沢山のことをもう一度考えるようになりました。

五日間という時間があっという間で日本で一緒した人たちとの別れの時間が近づくにつれ物足りなさや残念さがつのりました。

日本では一日半は市民ネットワークの方たちと見学旅行をし、残りの時間は三グループに分かれ3泊4日のホームステイをしました。

会員の方全員と共にした時間の中で私は私たちに日本の歴史文化財を説明して下さったボランティア通訳の在日韓国人と一緒に遺跡を回ったことが印象に残りました。

それは私にとってこれ以上ない貴重で大切な機会と経験になりました。在日同胞が今も日本で暮らしながら私たちに親しく日本の文化財を説明して下さったことがとてもありがたくもうあんな経験をすることは無いのではと思います。

次はホームステイをしながら感じたことです。私たちは早間さんの家にホームステイすることになりました。早間さんの家は三世代が一緒に暮らしていました。最初に早間さんの奥さんと息子さん夫婦



チョンダウンさん

そしてお孫さんに会い挨拶をしました。ここでまた一つ驚きました。中年だと思っていた早間さんにお孫さんがいたことです。それだけではありません。早間さんと奥さんは食事を準備して下さい、名古屋の観光地をご自身で案内して下さいました。

その中でも楽しかったのは「オアシス」という名古屋の有名な高層ビルの展望台でした。そこからの夜景が本当にきれいでした。そこで奥さんと二人で撮った写真も貴重で大切な思い出です。早間さんと奥さんの写真を撮ってあげたりもしました。

漫画の主人公のコスプレをした人たちが、そのキャラクターのまねをする様子を見たり一緒に写真を撮ったりしました。今回の訪日で一番ため息の出るような思い出の一つが日本の漫画キャラクターに

変身するパフォーマンスでした。異次元の国に行ったような感じでした。

早間さんと奥さんと私たちが一緒した中での思い出は数えきれないほどですが、浴衣を着て犬山の街を歩いたことも楽しかった。

早間さんと名古屋城を訪れてうなぎ井ぶりを食べたこと、今思い返しても感慨を新たにします。

生まれて初めてうなぎ井ぶりを食べたせいが一層そんな感じを受けたと思います。次に楽しかったのは早間さんと奥さんと一緒に近くのショッピングモールで買い物をしたことです。みんなで家族のようにあちこちと回ったことも楽しい思い出になりました。

最後に今回日韓ネットワークを通して、ありきたりの旅行とは違うと感じたことが沢山ありました。いろいろなある中で小さな違いは勿論感じましたが、有益で意味あると感じたこともありました。

私が最も有益だと思ったのは日韓の文化に強い関心を持つ両国の人がこのような協力同好会を作り一緒に両国の文化を紹介し、私たちがこうしたプログラムに参加し、彼らに助けられ有益な知識と情報を得られたことでした。

またプログラムの中にホームステイがあったことで今回の成果が確かなものになったと思います。その国の文化を直接体験しないでその国の文化を理解することは難しいと思います。

⑦ 日韓交流会ホームステイ感想文 宋珍善(ソンチンソン) 忠南大学校 考古学科2年

どんなに世の中が良くなって自由に外国に行けるようになったとしても、外国人と仲良くなりその人の家で寝食を共にしながら縁を結ぶことは決して簡単なことではありません。

でも今回「日韓市民ネットワークなごや」が用意して下さったホームステイのおかげで私は日本で早間さんという素敵な方と仲良くなりました。

私たちは時々メールのやり取りをしています。まだ決定ではありませんが、私は出来れば来年もう一度早間さんに会いに日本行こうと思っています。

私はもともと日本に関心がありました。それで日本の文化について少しは理解し、日本語も少し出来ます。だから日本に行くことに心配はありませんでした。心配はネットワークの方とうまく過ごせるかということでした。

ホームステイで日本人の家に泊まり、寝食を共にしながら洗濯もしてこそ本当にその国の文化を理解する多くの有益な情報とヒントを得られると思います。

高速道路やその休憩所はどんな風に作られているのか、食文化はどんな形式で出来ておりどんな風に食べるのか、観光で来て見て感じることはよりほかにその国の性向と動きを把握するのに役立つと思います。

また今回のプログラムのために準備して下さった早間さん夫妻そして「日韓市民ネットワークなごや」の会員の方たちの配慮で日本人の「情」を感じることが出来ました。またもう一度こうした機会が持てればいいと思います。

残念な点があったとすれば皆さんがして下さいの程のお返しが出来ず恥ずかしかったこと。

また日本語が出来ず円滑なコミュニケーションが出来なかったことです。

また機会があればもう一度参加してみたいと思います。

「短い時間でしたが本当にほんとうにありがとうございました。また必ずお会いできる日があることを願っています。お元気で。」



ソンチンソンさん

外国人が抱いている日本人のイメージは「うわべは親切だが、胸の内では何を考えているのか分からない人」といったものが大部分です。

もしも文化の違いから失敗をしてしまったらと思ったからです。

私はネットワークの方々とは初めてお会いする時はかなり緊張していました。でも隣に座った坂口さんに韓国語で話しかけ簡単なやり取りをしながら少しずつ緊張がほぐれ楽になりました。坂口さんだけでなく韓国語のうまい藤野さんも気軽に話しかけて下さり気まずさを感じることもなく不思議な気持ちと期待感を同時に感じました。

韓国の友人たちの中には私の日本語がうまいことを肯定的に見てくれる人もいますが、「オタク」みたいだとか「結局、韓国人だから日本では無視されるぞ」という否定的な見方をする人もいます。それで私は韓国で日本語を堂々と話すことが出来ませんでした。でも日本人と一緒に過ごし話し合う中で私は日本語が出来ることに自信を持つようになりました。

二日目の夕方から私たちは三つのグループに分かれホストと一緒に行動しました。私たちのグループは早間さんの家に泊まることになりました。

私は早間さんと過ごすことが少し心配でした。二日間一緒に過ごしながらか見た早間さんは寡黙な方で、私たちの写真を熱心に撮られるだけで、この間早間さんと話した記憶がほとんどありませんでした。そのため親しくなることは難しいと思ってしまったのです。

しかし後で分かった早間さんはもの静かなだけで私たちと理解し合いたいという気持ちは他の方と同じでした。私たちが早間さんと同じ電車に乗って尾張一宮駅に降りると、自動車で私たちを迎えに来て下さった早間さんの奥様が待っていました。

印象の良い奥様は私たちを喜んで迎えてくれました。早間さんの家に着いて奥様の手作りの夕食を頂きながら早間さんの家族とも会いました。早間さんは韓国語がうまくないので意思の疎通に少し不便かもしれないとおっしゃりながら翌日のスケジュールを説明して下さい、その話しぶりから私たちへの配慮が感じられました。そして奥様は私が奥様と呼ぶと「お母さんと呼んでほしいわ」と情愛深く答えられ、それがまた私の心を温かくしてくれました。

それから約二日間早間さんと一緒に名古屋の名所を回りながら私たちは早間さんと話をすることで早間さんのことをよく知ることが出来ました。

犬山城での浴衣体験とか日程のいろいろなところで私たちへの心配りに本当にありがたかったです。

外国の方とこのように長い間一緒してお話しできたのは初めてのことで不思議な気分にもなりました。そして外国の人とも心が通じれば十分に親しくなれると思いました。

一緒に回りながら早間さんにすっかりお世話になりお返しをしたかったのですが、準備したものが少なくて本当に申し訳ありませんでした。

でも早間さんは気にしないでと私たちへ思いやりを示して下さいありがたくも済まない気持ちでした。

みんなで居酒屋に集まった夕食ではまた新しい方たちとお会いしお酒を飲みながら素敵な時間を持つことができました。



隣に座った時田さんとはたくさん話をしました。高等学校で美術を教えている時田さんは御自身の仕事を示すユニークな名刺を私たちに下さいました。その名刺を額縁に入れて時々その時のことを思い出しています。

その日はすっかり酔ってしまいました。私は居酒屋に携帯電話を忘れたことを後になって気づき早間さんとまた店に戻り携帯を失くさずに済みました。私は迷惑ばかりかけてみたいで何度も謝りましたが余計にすまない気持ちになりました。

韓国に帰る日早間さん夫妻が私たちを名古屋駅まで見送って下さいました。挨拶をして新幹線の改札口を通る時奥様は目頭を赤くされ「また必ず来て下さいね。」と言って下さいました。短い時間でしたが本当に情が通ったと私たちも目頭が熱くなりました。

今回ホームステイを通して本当に多くのことを感じることができました。

日本と韓国の間には良い感情だけがあるのではありません。でも私たちは十分に良い友人になれるしこれからもこのような交流の機会があることを望むようになりました。

またこのような機会があればまた参加したいと思いました。私のように日本に関心があり日本人との

交流を望む人にはぜひとも参加するよう勧めたいと思います。

学生交流団を迎えて

感想文を寄せて頂いたのは3人のホスト(早間、藤本、後藤)と、奈良旅行に同行し、通訳として活躍した大阪在住の大石好彦氏です。ここでは会の中で随一の韓国語の使い手である大石氏を紹介しておきます。春日井出身の彼は、会が発足した当時は名古屋の淑徳大学の学生でしたが、その後、韓国に留学して、韓国語をマスターしました。2005年の愛知万博の際に韓国館のスタッフとして採用されたキャリアを認められ、韓国の大韓貿易振興公社(略称コトラ)に就職、韓国女性との結婚も果たし、今は大阪支社の課長として働いています。

今回、大田の学生たちが奈良を訪問することを聞いた大石氏は、夏休みをあらかじめ取って交流団を迎え、法隆寺や東大寺で高僧の皆さんの説明を同時通訳で伝えてくれました。大田の学生たちの反応も良く、会員の中にこうした素晴らしい人材がいることに心からの喜びを感じました。

① 古代日韓の薫りを尋ねて- 一泊二日の奈良紀行 大石 好彦 日韓市民ネットワークなごや(大阪支店)

今は昔、尾張名古屋のその近く、春日井に生まれた男の子がいました。その子は一浪を経て大学に入ったものの、やりたい事を見いだせず悶々とした日を過ごしていたそう。そんななか出会った韓国の言語や文化に魅了され、2度の留学を経て韓国語を学び、それを活かして現在は日韓両国の共生のための仕事についているらしい。

韓国テグのなまりが抜けず、再び悶々とし始めた私にとって後藤事務局長との出会いは、まさに運命的であったと言えなくもない。その後、訪韓学生団の一員として韓国を訪れたり、韓国からの学生団と楽しい時間を過ごしたことを覚えている。

それからしばらくして私は2度目の留学に旅立ち、留学を終えた後も大阪で職に就いてしまいネットワークなごやとも疎遠になっていだけだったが、後藤事務局長が時々連絡を入れてくださったおかげで形だけではあったものの縁が切れる事だけはなかった。

これまでも何度か交流のお誘いがあったのだが、場所が名古屋という事もありなかなか参加が叶わなかったのだが、今回は場所が関西(奈良)という事もあり参加に踏み切った。

さて今回の奈良紀行、私にとってそれはそれは有意義な経験となった。法隆寺に始まり唐招提寺、平城宮跡、東大寺とこれまでも何度か訪れた場所ではあったが、それまで気にとめもしなかった事や、普通では知り得ない事などを耳にしたことにより、奈良の旧跡に対する見方や考え方を改める機会となった。

また、忠南大学から来られた朴淳發教授の野外講義や法隆寺、東大寺での経験は理解を深めるのに大変役立ち、太古に芽生えた日韓交流が今もなお静かに息づくそんな姿に触れた気がした。ただ、事前準備が足りなかったせいか、訪日した学生たちには私が感じたことが十分に伝えられなかったのではないかと今も反省している。

願わくば、いつの日か再び彼らとともに奈良・飛鳥の薫りに触れたいと思う。



通訳する大石氏(右端)

正確な時分までは覚えていないが、私と日韓市民ネットワークなごやの出会いは20年近く前までさかのぼる。当時、1度目の留学を終えて間もないのに、すでに次の留学を目論んでいた私は後藤事務局長と出会った。

当時の私が知る名古屋の「韓国」は、母校の内では触れる「留学生」と「一部の資料」、そして名駅近くの「名古屋韓国語学校」がそのすべてだった。

此度の交流会参加者、その他ご協力いただいた皆様のご健勝ご多幸をここ大阪で願っている。

② 忠南大学交流団のホームステイ 早間 敏夫(ホスト)

これまで、地元一宮市の姉妹都市交流でのホームステイ受入や一昨年前の慶北大学、昨年春には愛知県と京機道との交流による養明高校からのホームステイのホストを努めさせて頂きましたが、すべて男子学生でした。今回は、忠南大学から3人の娘さん達をお預かりするという事で、私よりも妻の方がとても楽しみにしておりました。

「浴衣を着せてあげたい」とか、「女の子だからショッピングを必ず予定に入れて」とか、観光地巡りだけを考えていた私に、いろいろと提案もしてくれました。

私も妻も、韓国語での会話はほとんど出来ない事もあり、家での夕食後は、シャワーを浴びてもらい、ゆっくり休むように仕向けたのですが、「一緒にお話したい。」との申し出があり、毎晩、12時過ぎまで、団欒の機会を持ちました。三人は日本語

のたしなみもあり、全ての会話が通じる訳ではありませんが、心の通う本当に楽しいひとときでした。

初日は、妻が仕事でしたので、私が、名古屋城の本丸御殿、徳川美術館、断夫山古墳、熱田神宮を案内しました。昼食時に、「どこか寄りたい所は？」と聞くと、「ドンキに寄りたい。来る時にありましたよね？」と言うのです。確かに途中、国道22号線沿いにありましたが、ドンキの看板は小さく、楽市楽座の看板の方が目立つ店構えでしたので、よく気づいたものだ后感心しました。

要望通り、帰りに寄ると、既に、買う予定の物が決まっていたようで、迷わず買物を始めます。「ゆっくり買い物をしていいよ」と言い、私はベンチで待つことにしました。女の子達は本当に買い物が好

きなようで、約2時間後、両手に大きな袋を持って会計を済ませて出て来ました。



大田の学生と早間夫妻

二日目は、犬山城下町での浴衣姿、夜は、オアシス21の夜景など、インスタ映えする写真が撮れたと、とても嬉しそうな三人を眺めていると、こちらが、本当に幸せな気持ちになります。

帰りに、三人から私と妻に慣れない日本語での手紙を頂きました。「ホームステイのお陰で日本が忘れられなくなった。必ず、日本を再度訪ねて、再会したい。」との言葉は、ホスト役の私達にとって一番嬉しく、かけがえのない言葉です。

この出会いを、今回限りで終わらせることなく、これを機に、交流が更に広がり、続けて行くことが出来れば、とても素晴らしい事だと思います。

③ 大田の学生を迎えて 藤本 法良(ホスト)

我が家にホームステイしたジュノ君、デソン君は二人とも礼儀正しく、爽やかな好青年達でした。

何をするにも年長者である私のことを気遣ってくれる姿も新鮮でした。

また、彼らと一緒に観光、買い物、食事等をしたことで、私自身が日本文化の新たな一面を発見することができました。

ホームステイ以来、彼らとはSNSで連絡を取っており、私がソウルへ旅行した際には二人に会い、交流を深めることができました。今後も、彼らとの出会いを大切に交流してゆくつもりです。

④ 忠南大交流団のホームステイを終えて 後藤 和晃(ホスト)

8月6日(月)、韓国大田から来日していた忠南大交流団が日程を全て終え、無事、帰国していきました。一行と別れ自宅に向かう電車の中で私は

「今回も難しい問題をいろいろ解決しながら、やり遂げた交流団の招致だったけれど、やはり取り組んで良かったな」と呟いたものでした。

この小文では、我が家にホームステイした史学科1年のソンユンジュさん、史学科3年のアンヒョナさんという2人の女子大生と考古学科の教授パク・スンバル先生との思い出をお伝えしましょう。

まず、ソンユンジュさんは、対話に困らないほど日本語が上手でした。飾り気のない服装で笑顔で絶やさず、純真そのものに見える女子大生でした。



村越氏(左端)パク・スンバル教授(右端)

私が住んでいる江南市は、木曾川の南側に位置して畑が至る所に残っている田園地帯です。車で外出すると彼女は「あっ、あれはサトイモの畑ですね！そちらは、ジャガイモ！こちらはトウモロコシだ！」と畑の作物を正確に指摘するのには驚きました。これまでホームステイした学生たちの中で畑の作物を見分けられた人物は、まず、いなかったからです。

「ソンさんは、なぜ畑の作物に詳しいの？」と聞いたら、田舎の方に住んでいるお婆さんが畑を持ち、多彩な野菜を栽培しているので、自分も詳しくなったとの事でした。また、その、お婆さんは、日本語も上手に話すそうで、ソンさんが日本語を勉強する動機になったのかも・・・と思いました。

もう1人の、アンヒョナさんは、ほとんど日本語を話さず、最初は理知的な表情をあまり崩さない女子大生という印象でした。後で忠南大から送られてきた学生たちの感想文を読んで、彼女の心中に、近世以降、韓国の歴史を翻弄してきた日本国への警戒感が居座っていたことがよく分かりました。

そんな彼女もホームステイ2日目からは、よく、笑い、率直にいろいろ話をしてくれるようになりました。彼女との対話の中で私は自分の聞き違いかとびっくりしたことがありました。彼女は「将来どんな職業に就きたいですか？」との質問に、次のように語ったのです。

「私は歴史の教科書の原稿を書ける作家になりたいのです。私は歴史にすごく関心があります。もっともっと韓国と東アジアの歴史を研究して、学生たちが読んでくれる歴史教科書を出版したいと思っています！」

彼女の発言には、一瞬、驚いたものの、彼女の決意の固さは、十分、理解することができました。これまでも韓国の若者が自分の目標を率直に語ってくれた経験があったからです。

例えば、かつて、名古屋大の理工学部で建築を学んでいた女子大生が、こんな決意表明をしました。

「私は、将来、日本で弁護士を目指したいのです。来年は、早稲田大学の法学部の大学院に入学し、将来は弁護士の資格を取ります。」

彼女は確かに翌年、早稲田大学に転学して行きました。

その後の状況は不明ですが、自分の目標をはっきりと告げる勇気は、みごとだと思ったのでした。

アンヒョナさんは、いずれ韓国で歴史をテーマに教科書を書く作家か、大学の歴史の先生になるでしょう。将来が楽しみです。

さて、最後に、学生たちを引率してきていただいた百済考古学の大家であるパク・スンバル先生への感謝を記します。

パク先生は、忠南大学の学生を招きたいとの我々の希望を受け入れ、来日されました。来日の直前に元日本考古学会の会長だった西谷正先生から「パク教授は、去年、脳梗塞を患ったと聞きましたが、本当に来られるんですか！？」との電話を貰いました。私たちの心配をよそに、パク先生は、「僕の体はもう大丈夫です。学生たちに良い経験をさせたいから来ましたよ！」と笑っておられました。

先生への感謝は、もう一つあります。私が、30年もの昔、北陸の古都、金沢の骨董品屋で買っておいた韓国の「新羅の壺」2点を鑑定していただいたのです。パク先生は、古代新羅の首都だった慶州出身の考古学者なので、一見して壺の真贋を見分けられる人物です。

結果は…と言えば、嬉しいものでした。まず大きくて首の長い壺の評価です。

「これは、伽耶連盟を主導した国で、現在の高霊にあった大伽耶(テガヤ)の長頸壺ですね。時代は5世紀前半のころの物で、長い首の先端が鋭く立ち上がっていて形の良い優品です！」

もう一つの小さい壺の鑑定は、次のようでした。

「これも本物で、大伽耶と共に伽耶連盟の盟主だった金官伽耶(今の金海)のもので、7世紀から

8世紀の頃の壺でしょう。いずれも貴重な壺ですから大切にしてください！」

大伽耶の壺は、なんと1500年以上前の貴重な壺だとか……。パク・スンバル先生の鑑定に大感謝でした。

中国東北部“渤海紀行”に参加して

① 中国東北部(渤海)史跡紀行の旅(2018年9月17日～24日) 石割 三千雄

その日の朝、筆者は少し興奮して目覚めた。まだ見ぬ、かつて渤海国と呼ばれた地域へ向かう旅へと出発するためだ。

この旅は、小生の今は亡き父親が二十歳(昭和11年)の時に陸軍二等兵として派兵された満洲と重なっている。親父は衛生兵としての教育を受けるために新京(現在の長春)へ派兵されたという。古いアルバムを見ると関東軍司令部の建物が写っている。満州国皇帝の宮城もある。また帰国の際には大連に立ち寄ったらしく乃木大将とロシアのステッセル将軍が会見したと言われる旅順・水師營のナツメの木がある。こんな事を頭の隅に置きながらの旅である。

*ハルビン地区(9月18日)

旧満州の長春地区である。われらの一行は中国への第一歩として黒龍江博物館にむかった。色んな文物をみた。金の人物像と鍍金の仏像を見てこれが日本や朝鮮の仏像とはやや異なると思った。当然仏師がこれらを作ったわけで、仏像のルールにのっとってはいる事と考える。

*牡丹江地区(9月19日)

上京龍泉府の遺跡を見た。高句麗の遺民と言われる、大祚榮(テジョヨン)が建てた震国はのちに渤海と改称される(713年)。内城と外城と呼ばれる広い遺跡を見学した。平原の中にある宮城の防衛はどの様であったか、また、通信手段はどの様になされたのだろうか。狼煙あるいは烽火も使われたであろうが、それらのヒントになるものは掴めなかった。

この遺跡の片隅に興隆寺がひっそりと遺されていた。

*敦化地区(9月20・21日)

二十四塊石の遺跡を二個所を見た。何の目的でこの大きな石を二十四個並べたのか謎であるらしい。こんなロマンを妄想しているとき中国の官権が介入してきた。この遺跡の写真を撮るなど言うわけである。このあとしばらく警察官の車が私達の車を追尾していた。「中国の官権の力、恐るべし」というところである。

*延吉地区(9月22日)

延吉の街を離れて山の峠を越えて和龍市の街へ向かう。中京顕徳府遺跡の西古城を見学。ここは6年前に集安の好太王墓を見学した際、立ち寄ったはずの遺跡である。史跡としての整備が進んでいて6年前の景色が思い浮かばない。

*大連・旅順地区(9月23・24日)

この地区は渤海の遺跡は残っていない。日露戦争でロシア軍が築いた塹壕などの遺跡を見た。しかし、その町並みには親父が見たであろう面影は殆ど見ることはできなかった。町の一角を除いて高層ビルが林立するばかりである。

その後旅の一行は市内の百貨店で土産物の買い物をして楽しかった渤海の旅を終えた。

この旅を導いてくださった後藤幹事、事前の講演で我々に「渤海とは」を教えてくださいました。西谷 正先生に謝意を表します。



黄金の騎馬像



渤海時代の石塔



203高地から見る旅順港

② 中国東北部渤海紀行 山崎 育子

「渤海に行く」の夫の言葉に、好奇心旺盛な私は「私も」と即言ってしまいました。以前から、故郷三国湊との関連で渤海に興味を持ち調べていた夫と違い、私には渤海は謎と幻の国でした。講座

に行ける日が無く、自宅学習でお許しいただき、お仲間に加えて頂きました。『渤海国』講座テキストを読み、TV『テジョヨン』視聴という付焼刃の

学習でしたが、知らなかったことを多く学びました。

渤海と日本の200年に渡る平和的な関係は、政治・経済だけでなく、文化・文学にも深く及び、唐や新羅より親しい国だったことから俄然興味が深まり、菅原道真はじめ多くの宮廷人との多彩なエピソードも印象的でした。『テジョヨン』も、史実とは異なるドラマですが、陸続きの国・内外の熾烈な争いと、祖国・大地への民族の情念を感じました。

渤海の首都は旧国・中京・上京・東京・上京と変遷しています。それらをできるだけ巡るとのことです。クワクの出発でした。

9月19日、黒竜江省寧安市の上京龍泉府。外城は南北3.4km東西4.9km、土の外城壁はしっかりと版築で固められ残っていました。高い並木の植林で遠くからも威容がわかります。宮城と皇城は、唐長安城と似ています。溶岩で造られた宮城城壁も残り、第一宮殿の上から南を見渡すと、燃えたつ



上京龍泉府史跡



上京龍泉府の宮殿前の花畑

百日草の大広場。ここは文武百官が儀式の際、磚製の版位に従い並ぶ場と聞き、日本の遣渤海使も加わったであろう儀式の壮大な情景が浮かびました。

9月21日は旧国、吉林省敦化市の敖東城。ここも広大と期待していましたが、石の案内が二基だけ。周りは再開発工事中で全容は全くわかりません。

二基は左ハングル、右漢字とハングル上位だったことが印象的でした。

9月22日、吉林省和竜市の中京顯徳府西古城



テジョヨンを想起させる騎馬像

跡。周りはフェンスでしたが、係員が鍵をあけてくれており、美しく整備された全容を見られました。本当は木道を歩きたかったのですが、じっと我慢。午後は吉林省琿春市の東京龍原府八連城。ガイドも運転手も初めての城址。八連城煤砦の石碑付近で、バスを進めた先は、牛が長閑に草を食む高句麗時代の高力城址でした。土塁が残り、ここもハングル上位の二基の石。延辺朝鮮族自治州であることを実感しました。本命の八連城を地元の方に聞き、村の長老の案内で城址近くの建物に辿り着きました。建物前には出土品が干し並べてありましたが、遺跡接近も撮影も禁止。トイレ拝借時に内部も見ましたが、出土物の整理中で遺跡公開はかなり先かと思いました。残念ながら、バスから八連城遺構を遠望するにとどまりました。

博物館は三ヶ所訪れました。特に渤海上京遺址博物館は新設で、模作ながら貞孝公主の墓室内部の壁画や墓誌が見られました。



貞孝公主壁画

楽人や侍衛が色鮮やかに描かれ、高松塚を思い起こすと共に、四神と侍女群像が無いなどの違い

も興味深かったです。龍頭山古墳は遠望しかできなかったもので、ここを訪れて良かったと思えました。この博物館も準備段階で、今後整備していくのかなと感じました。

また、今までに訪れた上海や西安、蘇州と異なる場面に数多く遭遇しました。その都度、驚いたりきれたり、腹が立ったり…。一方、長距離列車車掌との楽しい出会いも。これが現代中国の生の姿としみじみ思い、旅の貴重な財産となりました。

帰国後、何とか八連城の全容が見たいと、ヤフーで航空写真を検索したら、高力城と八連城、何とあの建物までくっきり写っていました。恐るべし航空写真！現場に近づけなかったのは残念でしたが航空写真で遺跡を見つけたことは帰国後の大きな喜び・収穫でした。

最後に、初参加の私達を温かく迎え、思い出深い旅に導いて下さったことに唯々感謝です。西谷先生や後藤団長はじめ皆様の若々しくエネルギーな言動に、今後の指標をいただいた気がします。有り難うございました。

③ 中国東北部渤海紀行 松尾 博雄

この度の中国東北部渤海旧都の旅は、西谷正先生の引率のもと、八日間誠に充実した歴史紀行でした。事前に四月から七月にかけて先生の講座を受けての探訪でしたので、とても良く理解することが出来、やはり講義の内容を現場で確認するということの大切さを体験し得ました。ここに、西谷先生と大変お世話を頂いた後藤和晃さんに心から感謝を申し上げます。

表合十句「渤海の」の巻

独吟 松尾 博雄

渤海の遺跡に秋の目を凝らす

遙か山裾さやか城壁

蒼天に弓張月の浮かびひて

二十四塊石探す草叢

老酒らうちゆうの杯を重ねてご機嫌に

粹すいな噂うわさに涼し空耳

館内の資料魅とれる夫婦連れ

榆の大木興龍寺奥

旧王都花一面に咲き乱る

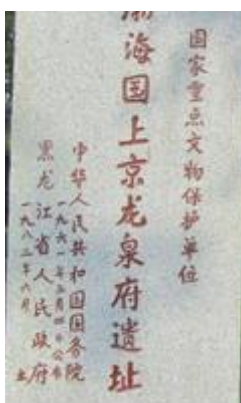
足速くして師匠のどらか

平成三十年十月一日

渤海の旧都訪ねて天高し

秋晴るる街は高層住居群

声高に話す人々秋社日



渤海史跡を旅して

ハルピンのモダンな街や鱈雲

仲秋節月餅を買ふ人の列

楚楚と日本人街涼新た

ななかまど溶岩垣に東京城

見はるかす稲田となれり宮城址

古城址の空井底より虫の声

肩まろき六頂山や鳥渡る

稲田径西古城へと続きけり

早稲が香や遺跡出土の煉瓦干

塹壕の砲弾跡や木の実落つ

吾亦紅乃木保典の戦死跡



乃木保典の墓碑



西古城の石碑



ハルピンの公園



事務局後記 사무국후기

事務局通信の1で、韓国の最高裁で、今後も徴用工問題や、女子挺身隊訴訟で、日本企業に対する賠償判決が相次ぐのではないかと、懸念を呈しておきました。残念ながら韓国最高裁はさっそく11月29日に三菱重工に対し、元徴用工や元女子挺身隊員に賠償を命じる判決を下しました。

河野外相は「日韓の法的な基礎を完全に覆す。これまでと桁(けた)違いの影響を及ぼす」と語りました。

それぞれの政府が、それぞれの国民感情に配慮する余り結果として対立が深まるだけでは、日韓関係はさらに冷え込みます。かつての金大中大統領のように「何としても日韓の絆を回復しよう！」と行動する清新なリーダーの出現が望まれるところです。